

令和 2 年度 事業報告書

(令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)

目 次

I 法人の概要

- 1 法人の名称
- 2 法人の所在地
- 3 認可年月日
- 4 沿革及び学園の組織
 - (1) 学園の沿革
 - (2) 学園の組織
 - (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名
 - (4) 設置する学校・園の名称及び所在地
 - (5) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況
 - (6) 設置する学校・園・学科等教員・保育士数の状況

II 事業の概要

※各学校・園の事業報告は別紙資料の通り

III 財務の概要

※別紙資料の通り

学校法人 三浦学園

I 法人の概要

1 法人の名称

学校法人 三浦学園

2 法人の所在地

東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

3 認可年月日

昭和 19 年 3 月 31 日

4 沿革及び学園の組織

- (1) 学園の沿革 (別紙参照)
- (2) 学園の組織 (別紙参照)
- (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名

① 理事・監事

〈令和 3 年 3 月 31 日現在〉

役職	選任事項	氏名	現職
理事長	第 2 号 理事	三 浦 洋 義	学園長
常務理事	第 2 号 理事	三 浦 裕 明	理事長補佐
理事	第 1 号 理事	若 林 彰	有明教育芸術短期大学学長
理事	第 3 号 理事	井 上 嘉 明	井上税務会計事務所長
理事	第 3 号 理事	富 永 光太郎	(株)リヴィジョン代表取締役社長
理事	第 3 号 理事	陰 山 雄 司	岩井機械工業株式会社主幹
監 事		朝 倉 和 行	(株)朝倉代表取締役
監 事		村 滋	(有)ムラ・アソシエイツ代表取締役

② 評議員

役職	選任事項	氏名	現職
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 洋 義	学園長・理事長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 裕 明	常務理事・理事長補佐
評 議 員	第 1 号 評 議 員	中 西 菊 乃	有明教育芸術短期大学事務局次長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	菊 本 和 仁	日本音楽高等学校長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	小 菅 雅 之	法人事務局経理課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	渋 谷 匡	法人事務局広報課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	田 中 美 恵	日本音楽学校保育園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	水 本 眞 澄	日本音楽学校幼稚園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	平 井 キミ子	日本音楽高等学校同窓会監査
評 議 員	第 2 号 評 議 員	新 井 清	(有) 希望商事代表取締役

評 議 員	第 3 号 評 議 員	磯 是 詔	元法人事務局長
評 議 員	第 3 号 評 議 員	森 戸 由 久	創価女子短期大学名誉教授
評 議 員	第 3 号 評 議 員	根 本 美 香	根本美香バレエスクール主宰

(4) 設置する学校・園の名称及び所在地

名称	所在地
有明教育芸術短期大学 子ども教育学科	〒135-0063 東京都江東区有明二丁目9番2号
日本音楽高等学校 普通科 (幼児教育コース) 音楽科 (幼児教育コース) (音楽コース) (バレエコース) 〈舞台芸術コース〉	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号
日本音楽学校幼稚園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号
日本音楽学校保育園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号

(5) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況

(令和2年5月1日現在)

	入学 定員	収容 定員	学生生徒園児 現 員 数	令和元年度
				入学者数
有明教育芸術短期大学	100名	300名	179名	75名
子ども教育学科	100	300	179	75
日本音楽高等学校	100	300	182	57
音楽科 (幼児教育コース)	100	300	28	13
(音楽コース)			41	9
(バレエコース)			54	13
〈舞台芸術コース〉			59	22
日本音楽学校幼稚園	35	150	96	32
日本音楽学校保育園	9	26	28	7

(6) 設置する学校・園教員・保育士数の状況 (令和2年5月1日現在)

①短大教員

設置校名	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	兼務者
有明教育芸術短期大学	5	6	3	0	0	14	22

*学長は教授に算入

②高校教員・幼稚園教員・保育園保育士

設置校名	専任教諭・保育士	兼務者
日本音楽高等学校	18	57
日本音楽学校幼稚園	7	0
日本音楽学校保育園	12	0

II 事業の概要

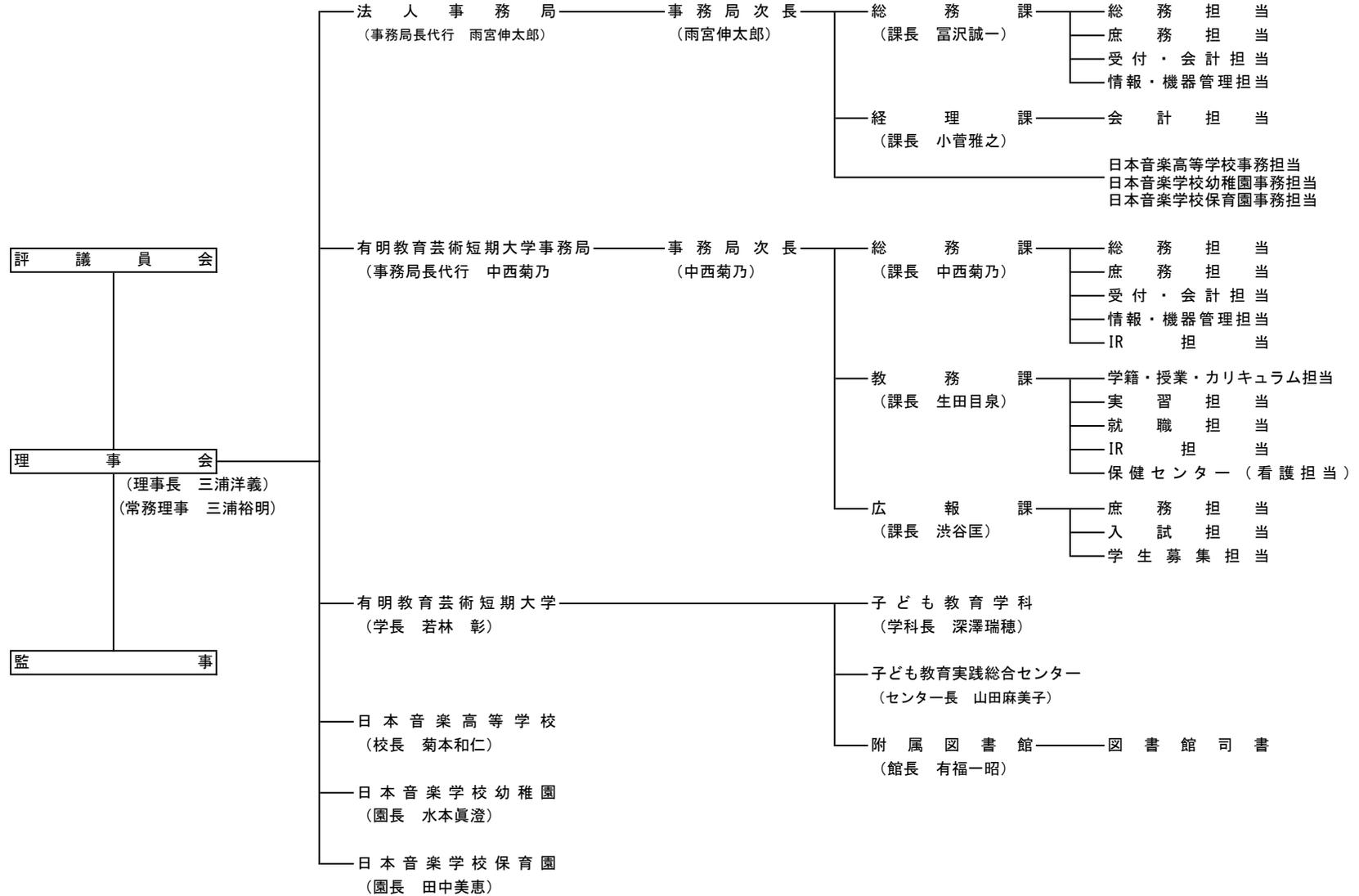
※各学校・園の事業報告は別紙資料の通り

III 財務の概要 別紙資料の通り

法人の沿革	明治36年	山田源一郎により我が国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」として神田淡路町に創立
	明治39年	女子音楽学校(女子)・日本音楽協会(男子)に名称変更
	大正13年	校舎を中野打越に移転
	昭和2年	日本音楽学校に名称変更。創立者・初代校長 山田源一郎死去
	昭和19年	学校法人三浦学園成立(3月31日)
	昭和22年	校舎を品川区豊町に移転
	昭和24年	日本音楽学校附属幼稚園および日本音楽学校附属入新井幼稚園を設置
	昭和25年	日本音楽学校附属豊小学校、日本音楽学校附属豊中学校、日本音楽高等学校を設置
	昭和28年	日本音楽学校に我が国初の教員養成機関(中学校音楽教諭養成科)を設置し、文部大臣の指定認可を受ける
	昭和29年	日本音楽学校に文部大臣指定の幼稚園教諭養成科を設置
	昭和36年	日本音楽学校附属入新井幼稚園を廃止
	昭和47年	日本音楽学校に厚生大臣指定の保母養成科を設置
	昭和53年	日本音楽学校が専修学校に認可
	昭和63年	日本音楽学校創立85周年事業の一環として2号館校舎(教室、中ホール)竣工 日本音楽高等学校 音楽科「バレエコース」設置
	平成4年	日本音楽学校創立90周年事業の一環として三浦記念館(大ホール、幼稚園舎、視聴覚教室、特別教室)竣工
	平成5年	三浦洋義理事長及び学園長に就任
	平成7年	日本音楽学校附属豊小学校及び日本音楽学校附属豊中学校を廃止
	平成9年	日本音楽学校にレクリエーション・インストラクター資格者と児童厚生指導員の養成課程設置
	平成11年	厚生大臣指定東京聖星社会福祉専門学校(介護福祉学科)設置
	平成13年	日本音楽学校保育園設置
	平成14年	日本音楽高等学校 普通科「幼児教育コース」設置
	平成15年	日本音楽学校創立100周年
	平成20年	有明教育芸術短期大学 認可(10月31日)
	平成21年	有明教育芸術短期大学子ども教育学科及び芸術教養学科の二学科で開学
	平成22年	日本音楽学校を廃止 日本音楽学校附属幼稚園を日本音楽学校幼稚園に園名変]
	平成23年	日本音楽高等学校 音楽科「舞台芸術コース」設置 東京聖星社会福祉専門学校を廃止
	平成26年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科学生募集停止
	平成27年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科廃止
	平成28年	日本音楽高等学校 普通科募集停止
	平成29年	日本音楽高等学校 幼児教育コースを音楽科として募集
平成30年	有明教育芸術短期大学創立10周年	

I - 4 - (2) 学園の組織

(令和2年3月31日)



令和2年度 有明教育芸術短期大学 事業報告

1 教育課程

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、文部科学省の要請を受け、年度当初より大学を閉館した。5月以降、オンラインを活用した授業を実践したが、年度当初から、学生は出校していないため、オンラインの体制作りに多くの労力を要した。オンライン授業の成果と課題については、FD委員会にて分析中である。

(1) オンライン授業について

オンデマンド型、同時双方向型、講義資料配信型、メール配信型（課題提示）による、オンライン授業を実施した。

① オンデマンド型

学習時間を固定的に設定せず、YouTube等を通じて、学生に対して教材（音声データ・PDFファイル、課題等）を提示し、授業内容を教授する方式。

② 同時双方向型

インターネット通信によるWeb会議システムを利用して、離れた場所にいる教員や学生を非対面で繋いで行う授業。リアルタイムで行うため学生は、決められた時刻に通信を行う。提示されている時間割の時刻に実施するのを原則とした。

本学のシステム環境のため1コマに1授業で実施した。オンラインミーティングツールZoom、或いはGoogle Meetを活用して実施した。

③ 講義資料配信型

パワーポイント資料など授業で用いる資料を教材としてGoogle Classroomを活用して配信した。ただし、資料を見るだけや指定した頁を見ておくことだけでは、成立しないとした。小テストや課題提出による理解度確認や質疑応答、学生同士の意見交換等を行う工夫が必要であった。

④ メール配信型（課題提示）

ユニパ等を活用して、メールにて課題を提示し、メールでの返信による回答を求めた。

(2) その他

新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、入学式及び学位記授与式は中止或いは変更して実施となった。

① 入学式 中止

② 入学前教育（選択課題－ピアノ実技講座の受講）中止

※ 必修課題－読書感想文 実施済

選択課題－保育関連施設調査レポート－ 実施済

③ 学位記授与式 令和3年3月23日(火) 規模を縮小して実施

卒業生、保護者(1家族1名のみ)、教職員のみ参加

2 教員人事（令和2年度～3年度異動）

(1) 退職者		
専任 2名	田中 正代 堀越 敦子	准教授 講師
非常勤5名	西脇 千花 高橋由利子 奥島美智子 久保景子 川合沙弥香	担当科目「ピアノⅠ・Ⅱ」 担当科目「教育の心理」 担当科目「食と栄養」 担当科目「保育内容(表現)」 担当科目「ドラマとコミュニケーション」
(2) 異 動		
	昇任2名 橘 和代 講師 (准教授昇任) 松田扶美子 講師 (准教授昇任)	
(3) 採用者		
専任 3名	石井 友行 教授 池口洋一郎 教授 伊藤菜々子 助教	担当科目「特別活動」他 担当科目「障害児保育他」他 担当科目「芸術文化論」他
非常勤6名	大島 靖史 大澗 弘幸 鈴木 聡之 伊垣 京子 松波 紀幸 齊藤 朗子	担当科目「保育内容(表現)」Ⅱ 担当科目 子ども教育特別講座「ドラマ入門」 担当科目 子ども教育特別講座「ドラマ入門」 担当科目 子ども教育特別講座「アニメーション」 担当科目 子ども教育特別講座「プログラミング」 担当科目「教育の心理」

3 自己点検・評価

(1) 情報公開

令和元年度の教育課程に関する自己点検・評価をホームページで公開した。

(2) 第三者（学外有識者）による点検・評価

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、対面の会議は行わず、委員への資料の送付、各委員の評価、返信による点検とした。令和元年度における大学の3つのポリシー（カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、ディプロマポリシー）及び地域連携・貢献に関する諸活動について点検・評価を受けて承認を得た。

(3) 2年度自己・点検評価報告書作成（令和3年6月完成）に向けた準備

自己点検・評価項目の整備を終了した。

(4) 大学等改革総合支援事業（タイプ1）調査票に基づき、本学における教学マネジメントの現状を点検した（64/99点）。その結果、本年度は選定ラインの68点をわずかに下回り、大学等改革総合支援事業（タイプ1）として本年度は選定されなかった。

4 入試制度の改革

本年度実施の入学者選抜より、入試方法、入試区分、実施時期を変更した。

<主な変更点>

(1)すべての入試区分において、「知識・技能」「思考力判断力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ」の学力の3要素を多面的・総合的に評価して合否を決定する。

(2)入試区分

一般選抜	(旧)一般選抜	45名
総合型選抜 適性評価型 プレゼンテーション型	(旧)AO入試 (旧)自己推薦入試	45名
学校推薦型選抜 公募制 指定校制 特待生 日本音楽高等学校特別推薦	(旧)推薦入試(公募制) (旧)指定校推薦入試 (旧)特待生推薦入試 (旧)日本音楽高等学校特別推薦	10名
特別選抜(社会人)	(旧)社会人入試	若干名

(3)実施時期 試験日は、10月以降とする。

5 教員評価の実施

令和元年度9月に制定した「有明教育芸術短期大学教員活動評価実施規程」をもとに、教員評価活動を本年度も実施した。本学2度目の実施となる。

教員評価は、本学教員が自己の活動を点検し、評価することを通して、本学の教育研究活動の活性化を促進し、教員の諸活動への支援・啓発、本学の教育、研究及び社会貢献等の改善・向上に資するために実施する。対象者は、前年度1年間、本学の専任の教授、准教授、講師、助教であったものとする。評価は、「教育」「研究」「社会貢献」「管理・運営」の4領域としA～Dの評点に基づいて自己点検評価を行う。

<評価内容>

(1) 教育 ①授業担当科目 ②学生の授業評価 ③教育方法の改善等 ④FD活動 ⑤サークル活動等 ⑥学生支援
(2) 研究 ①学術論文・著作等 ②学会等における研究発表 ③芸術・体育系分野の業績 ④外部研究費の導入実績
(3) 社会貢献 ①学会の役員、論文審査委員等 ②公的機関から委嘱された審議会、委員会等の委員 ③公的機関から依頼された研修会等の講師等 ④公開講座等
(4) 管理・運営 ①全学的委員会及びその他の貢献実績 ②入試業務関連 ③管理職の実績
(5) 反省、省察

12月に教員活動評価実施要項に基づき、対象教員の令和元年度における教員活動評価を

実施した。

教員活動報告書に加えて、授業改善報告書を作成した4名に対し、規定に基づき顕彰を行った。(学長奨励賞 ・菊地大介 ・橘和代 ・赤坂澄香 ・松田扶美子)

6 研究活動

(1) 有明教育芸術短期大学紀要第12巻

・原著論文 2編

①乳児・幼児期における言葉の獲得・発達から「小学校国語科」へ
(教授 長田信彦)

②領域「言葉」におけるパネルシアターの保育教材としての有効性
(准教授 田中正代)

・実践研究 2編

①保育内容「表現」における学生の学びと今後の課題について
～オンライン授業の取組に着目して～ (教授 山田麻美子)

②音楽表現に関する研究―声楽的観点による自分の声の分析―
(講師 松田扶美子)

・研究ノート 1編

①保育士養成課程における心理学の学び―「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「子どもの理解と援助」の授業に求められるもの
(准教授 赤坂澄香)

(2) 子ども教育総合センター紀要第4巻

・原著論文 2編

①国語力を育む幼児期の援助・指導と国語教育の在り方 (教授 長田信彦)

②協働志向性の育ちに関する一考察(2) ―生活基盤型保育における実践から―
(准教授 菊地大介)

・実践研究 3編

①保育内容「環境」の授業実践記録に関する研究 ―園外での自然体験活動に焦点をあてて―
(教授 深澤瑞穂・准教授 信太朋子)

②保育者養成校におけるピアノ遠隔レッスンの研究 ―新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み―
(非常勤講師 福田久美)

③子供たちに楽しい放課後を ―地域の人たちと作る「放課後教室」の活動―
(非常勤講師 山寄早苗)

・事業報告 4編

①地域の教育・保育関係機関との連携事業Ⅱ ―本学と江東区の取組―
(教授 深澤瑞穂 教授 山田麻美子)

②令和2年度実践教育研究会質問紙調査結果報告
(准教授 澤田由美 准教授 信太朋子)

7 募集対策

(1) オープンキャンパス

3月に緊急事態宣言が発出にされ、3～5月のOCは開催できなかった。来校型イベントに代わるものとして、4月よりYouTube動画を中心としたWebOCページを設置し、5月以降にはZoom・LINEを使ったオンライン個別相談を開始し、随時対応した。Zoomによるライブ形式のオンラインOCは7月以降で計7回実施した。

従来の来校型での開催したOCは、7～8月の計3回で午前の部を増設し、実質6回開催となった。

コロナ禍による影響で参加者数は減少となったが、入学者数は伸ばすことが出来た。

(2) 地方出身者（一都三県外）とオンラインOCの効果測定

地方出身（一都三県外）の受験者=12名(12/84=14.3%)】

オンラインオープンキャンパス（Zoom）計7回実施、参加者数、全学年（延べ）23名受験対象者17名、オンラインOCに参加してから来校型オーキャンに参加した生徒もいる。7名が受験まで結びついている。



地方出身者（一都三県外）	令和3年度入学	12/84名（14.3%）	内訳
オンラインイベント参加のみで受験	4名	秋田・福島(2)	宮崎県
来校型イベント参加のみで受験	5名	愛媛・静岡・栃木県・鳥取・北海道	
イベント参加なしで受験	3名	栃木(2)・鳥取	
<参考>			
令和2年度入学	17/75名（22.7%）	青森1・茨城2・岩手1・滋賀1・静岡1・長野3・新潟4 ・兵庫1・北海道1・山形2	
令和元年度入学	11/63名（17.4%）	石川2・岩手1・群馬1・静岡3・栃木1・三重1・山形2	
平成30年度入学	6/48名（12.5%）	秋田1・茨城1・愛媛1・新潟1・福岡1・北海道1	

8 退学者

コロナ禍の中、多くの退学者が出るのが危惧されたが、年度内の退学者はでなかった。しかし最終年度末になり退学者が3名（元年度比-4名）現れた。病気(1名)ないし進路変更(2名)が理由である。退学者の減少は、教員及び教務課職員等によるきめ細かな個別対応の成果が上がったと考えている。

また、教務委員会・教務課による履修指導、保証人への通知の他、学内ワークスタディ（WS）及び『原級留置者の学生納付金に関する規程』による納付金の補助も成果があったと考える。

9 学生生活

(1) 新入生研修

令和元年度に、学友会主導で企画・運営が行われ、上級生や教職員と交流が深まる仕組み作りが出来上がってきたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対応を受け、新入生研修は中止となった。

(2) 縦割りクラスによる授業

「学習と表現の技法」を縦割りクラスによる授業を行い、上級生と下級生の人間関係の構築に寄与した。

(3) 有明祭

学生の主体的活動を目指して、学友会の企画・運営で準備してきたが、新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、例年の活動は全て中止となった。

「私たちにできること」をテーマに、学生たちが撮影したサークル活動やパフォーマンス発表の動画を10月25日(日)のミニ・オープンキャンパスで、「Web 有明祭」として当日会場で上映、YouTube で公開した。例年とは違う形態ではあったが、活動の様子がデーターとして残り、学生の活動意欲が高まるという面も見られた。

(4) サークル活動

新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、年度当初からサークル活動は中止を余儀なくされた。

10. キャリア形成・就職支援

(1) 前期

新型コロナウイルス感染予防の観点から、公務員試験対策講座の開講を中止し、6月より、試験直前となる3年生のみ対象に指導を実施した。

受講者 小学校教諭5名、幼稚園教諭1名、保育士2名

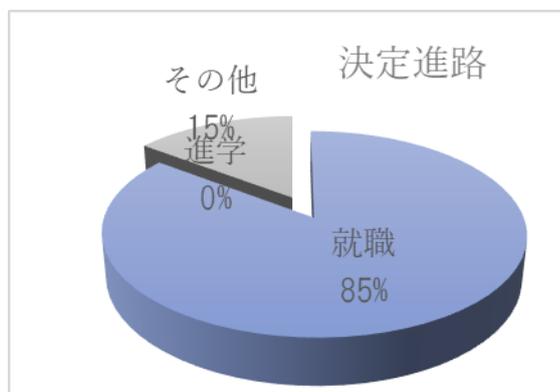
(2) 後期

月曜日・木曜日・金曜日の2限から5限の時間帯に以下の講座を開講。

- ① 小学校教員採用試験対策講座 40回実施
- ② 特別区幼稚園教諭採用試験対策講座 30回実施
- ③ 公務員保育士採用試験対策講座 41回実施

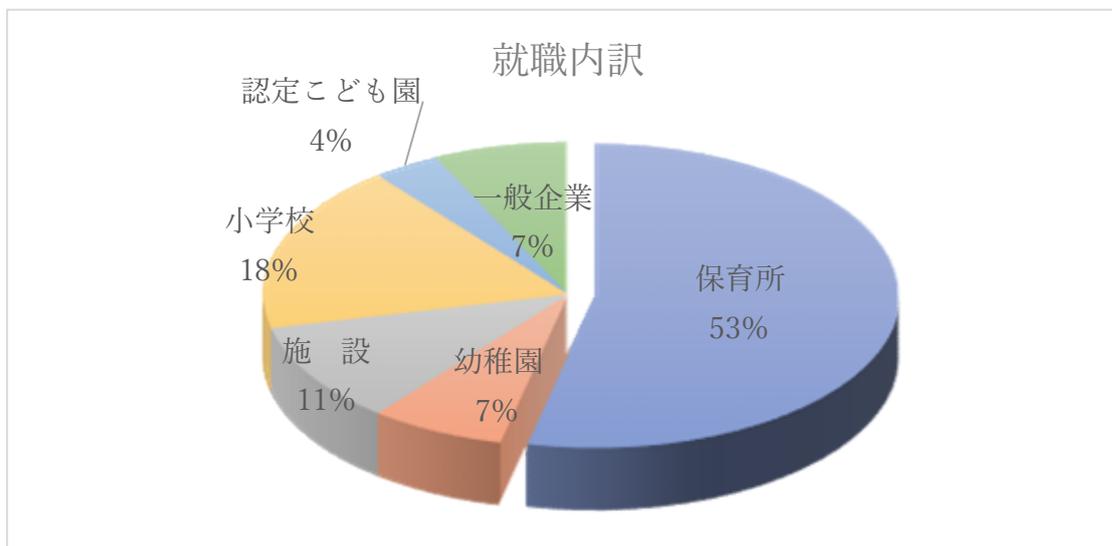
(3) 就職状況

令和2年度卒業生		計	男	女
卒業生数		34	8	26
希望進路	就職	29	7	22
	進学	0	0	0
	その他	5	1	4
決定進路	就職	29	7	22
	進学	0	0	0
	その他	5	1	4



< 就職先内訳 >

保育所	51.7% (15名)	幼稚園	6.9% (2名)	施設	10.3% (3名)
小学校	17.2% (5名)	認定こども園	3.4% (1名)	一般企業	6.9% (2名)



東京都の公立小学校教員採用選考に、本学の大学推薦者として4名を推薦した。

11. 地域等との連携・貢献

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、多くの取組みが中止となった。

(1) 江東区との連携事業

- ① 江東区立の幼稚園への学生ボランティア派遣 幼稚園 1名
- ② 江東区子どもまつりへのボランティア参加 子ども祭り中止

(2) 講習会・講座・研究会

- ① 教員免許状更新講習 中止 (オリンピック・パラリンピック開催対応のため)
- ② 公開講座・子育て講座 中止
- ③ 実践教育研究会

対面会議は中止し、質問紙による調査を実施、「子ども教育総合センター紀要第4巻」に分析結果を掲載し共有した。

(3) 子育て支援

- ① 親子サロン 中止
- ② 子ども発達相談 相談件数 1ケース

(4) 近隣に住む子ども対象の催し

- ① 水の日イベント 中止
- ② クリスマス訪問演奏 中止
- ③ 子供たちとともに 中止

(以 上)

令和2年度 日本音楽高等学校 事業報告

1 学習活動

「知性と芸術の融合」のもと、専攻実技や専攻実習の技能と表現を高める指導とともに基礎的な学力の定着・学習意欲の向上・希望の進路を実現する学力の向上を図る。（※各コースの専攻実技や専門の授業も『学力』として捉えることを周知）

(1) 朝学習、夏期休業中の講習及び各種検定の実施状況

- ・定期考査前2週間の朝学習（実施時間 7:40~8:10）

国語：月・木 数学：金 英語：水・木 音楽：火

朝読書は、新型コロナウイルス感染防止対策のため本年度は実施を見送った。

- ・夏期休業日の講習の実施 オンラインと併用して実施（生徒が選択）

第1期・第2期 7月後半 8日間

第3期 8月後半 4日間

(2) 「フォーサイト手帳」の使用

日々の専攻レッスンや実習に向けて、練習や準備が進むように年2回のアンケート調査を実施し、一般教科の学習とともに改善を図った。令和2年度も、自己管理能力育成のための「フォーサイト手帳」を使用して、一週間のレッスンや実習までの準備や自宅学習の時間の確保等を自己管理できるように進路主任や担任から指導した。アンケートによる業者の分析から効果がみられている。

(3) 各コースのコンクール、コンテスト実績

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の影響でたくさんのコンクールやコンテストが延期や中止となった。以下はコロナ対策をして開催されたものに出場した生徒の入賞結果等である。

【音楽コース】

<個人：コンクール> ※本選以上

①第30回日本クラシック音楽コンクール【本選出場】2年1名 3年2名

②第38回全日本ジュニアクラシックコンクール

【本選出場】2年1名 【全国大会出場：奨励賞】 2年1名

③第40回全日本ジュニアクラシックコンクール

【フルート部門全国大会出場】2年1名

④第40回全日本ジュニアクラシックコンクール【声楽部門本選出場】2年1名

⑤第2回中学生・高校生のためのコントラバス・ソロコンテスト

【本選出場】2年1名

<団体：地域の演奏活動&コンサート・コンクール>

①「令和2年度 第8回音楽コースOGコンサート」 中止

②「音楽コースコンサート（在校生による管弦楽・合唱による共演）」11/15(日)

会場：三浦記念ホール 対象：女子中学生と保護者

演奏：本校講師・音楽コース生徒

- ③「ふれあい交流会」：近隣（幼保・小・中・高） 中止
- ④OKK 主催会場説明会 ミニコンサート 中止
- ⑤「クリスマスコンサート」主催：品川シルバー大学同窓会 中止
- ⑥第55回東京私立中学高等学校教職員音楽会 中止

【バレエコース】

<個人：コンクール>

- ①第32回FLAP全国バレエコンクール2020夏 優秀賞 1年1名
- ②ヴィクトワールバレエコンペティション 第3位 2年1名
- ③第33回FLAP全国バレエコンクール2020 優秀賞1年1名
- ④第24回NBA全国コンクール レフォール賞1年1名 6-2位2年1名
- ⑤第7回全国鎌倉プレバレエコンクール 映像審査 奨励賞1年1名

<団体：演奏活動>

- ①「バレエコンサート 2020」

会場：三浦記念ホール 出演：バレエコース選抜生徒のソロ&ヴァリエーション
対象：女子中学生とその保護者

【舞台芸術コース】

<個人：コンクール>

- ①English Vocal Election（全国英語歌唱コンクール） 第3位 1年1名

<団体：演奏活動>

- ①「舞台芸術コースコンサート 2020」

会場：三浦記念ホール 出演2年舞台芸術コース 対象女子中学生とその保護者

【幼児教育コース】

- ①ゆたか児童センター「高校生と赤ちゃんとのふれあい事業」3年幼児教育コース
- ②「地域保育園との交流企画」 コロナ禍で依頼なし
- ③「日本音楽学校幼稚園の遠足引率補助」 中止
- ④「有明教育芸術短期大学との高大連携」有明教育芸術短期大学子ども教育学科
参加：幼児教育コース全員 内容：模擬授業「保育教材研究（うたと手遊び）」

2 生徒指導

（1）基本的な生活習慣の確立

建学の精神と教育目標を額に入れ、全教室へ掲示して、愛校心とともに意識向上を図っている。また、生活目標「あ：あいさつ、じ：時間、み：身だしなみ、こ：言葉遣い、し：姿勢」を教員の指導を徹底するとともに生徒会の取組の一つとしても様々な場面でを行っている。特に「自ら進んであいさつ」に関して、令和2年度の重点目標とした。

（2）日々の環境整備・校内に観葉植物、新聞・絵画・書等の掲示をし、音楽を専門とす

る女子校としての環境を整えている。また、生徒会活動の一環として朝の清掃活動・あいさつ運動や地域のボランティア活動を実施している。

(3) 年2回「心と体のアンケート」の実施

定点観測して比較予定・養護教諭の分析及び担任へ周知し、生徒の生活改善・生徒指導に活かしている。また、三者面談で保護者への啓発にも活用している。

3 各学年における指導

(1) 1年生

学校に慣れることを第一に指導に当たった。日常生活のルールを4月最初から徹底した。4月・5月は新型コロナ対応の臨時休校から特別時間割となり、例年のような指導をできなかったが、挨拶、号令の重視、徹底を行った。

校外学習は、中止となった。生徒二者面談を一学期、三者面談を二学期に実施した。サウンドオブミュージックへの積極的な参加態度についても指導を行い、全員真剣に参加することができた。

(2) 2年生

新型コロナウイルスの影響により、予定していた各行事が中止となり、総合学習の学年の発表がコース発表に変更、更に修学旅行の延期等、学年の団結を培う機会が減り、厳しい状況となった。しかし、日常の清掃、大掃除の徹底等を通して団結力の向上に取り組んだ。クラスの友人関係においては、各コースとも課題はそれぞれあったが、担任を中心に指導を進めた結果解決の方向に向かっている。

(3) 3年生

三年生の全員がそれぞれの希望する進路に進めるよう指導を行った。コロナによる2ヶ月の休校期間から、担任が生徒一人一人と密に連絡を取り、進路指導を行った。夏休みも利用し、また各コースの教員にも面接、実技指導なども依頼し、学校全体で生徒に関わることができ、生徒の希望する進路に導くことができた。特に今年は、コロナ禍のため、バレエコース、舞台芸術コースの生徒が進学を志す生徒が増えた。

今年度は、修学旅行、校外学習共に中止となったが、3年間の集大成として、卒業公演を成功させることができた。卒業式は、縮小の形で行った。

4 進路指導

(1) 令和2年度の進路合格実績 (音楽・幼児教育・バレエ・舞台芸術)

■ 四年制大学・短期大学 ■

<音楽系>

武蔵野音楽大学 音楽学部 演奏学科 器楽コース (ヴァイオリン専攻) 1名

武蔵野音楽大学 音楽学部 演奏学科 器楽コース (フルート専攻) 1名

国立音楽大学 音楽学部 演奏学科 鍵盤楽器専攻 (ピアノ専攻) 1名

上野学園大学 短期大学学部 声楽コース 1名

昭和音楽大学 音楽芸術表現学科 声楽コース 1名

洗足学園音楽大学 音楽学部 弦楽器コース (ヴァイオリン専攻) 1名

洗足学園音楽大学 声優アニメソングコース 1名

洗足学園音楽大学 ロック&ポップスコース ヴォーカル 1名

フェリス女学院大学 音楽学部 (ピアノ専攻) 1名

ミュージックスクールウッド 短期大学部 ボーカル科 1名

<舞踊・バレエ・ダンス・演劇・舞台・ミュージカル系>

尚美学園大学 芸術情報学部 舞台表現学科 ミュージカルコース 1名

昭和音楽大学 音楽学部 音楽芸術運営学科 バレエコース 1名

洗足学園音楽大学 音楽学部 音楽学科 ミュージカルコース 1名

洗足学園音楽大学 音楽学部 音楽学科 バレエコース 1名

日本女子体育大学 体育学部 ダンス学科 1名

日本大学芸術学部 演劇学科 舞踊コース 洋舞専攻 1名

<幼児教育系>

有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 4名

聖徳大学 児童学部 児童学科 保育士コース 1名

洗足こども短期大学 幼児教育保育科 1名

東京女子体育短期大学 保健体育学科 1名

<その他の学部系>

テンプル大学日本校 1名

跡見学園女子大学 心理学部 臨床心理学科 2名

戸板女子短期大学 服飾芸術学科 1名

■ 専門学校 ■

<舞踊・バレエ・ダンス・演劇・舞台・ミュージカル系>

音響芸術戦痕学校 ミュージカル&ステージスタッフ科 1名

尚美ミュージックカレッジ専門学校 音響・映像・照明学科 1名

尚美ミュージックカレッジ専門学校 ミュージカル学科 ミュージカル専攻 1名

東京スクールオブミュージック&ダンス ダンス&アクターズ科 テーマパークダンサーコース 1名

東京ダンス&アクターズ専門学校 ダンス&アクターズ科 ダンスプロフェッショナルコース 1名

東京ダンス&アクターズ専門学校 ダンス&アクターズ科 テーマパークダンサーコース 1名

東京ビジュアルアーツ 映像学科 テレビ放送専攻 1名

日本外国語専門学校 国際ホテル科 テーマパーク専攻 1名

日本芸術専門学校 演劇学科 ミュージカルコース 1名

E S P エンタテイメント東京 音楽アーティスト科 1名

<その他の専門系>

神奈川衛生学園専門学校 看護学科 1名

墨田看護専門学校 看護学科 1名

東京愛犬専門学校 愛犬美容学科 1名

東京デザイナー学院 プロダクトデザイン科 トイデザイン専攻 1名

東京ビューティーアート専門学校 ヘアメイク科 1名

山野美容専門学校 専門課程 1名

横浜歯科医療専門学校 歯科衛生士学科 1名

山手メディカル専門学校 1名

■ 劇団・バレエ団・海外留学・就職等 ■

東京シティバレエ団 TCBスタジオカンパニー 1名

M&S DANCE STUDIO テーマパーク・ミュージカルコース 西葛西スタジオ 第11期 1名

M&S DANCE STUDIO テーマパーク・ミュージカルコース 代々木スタジオ BASIC 第2期 1名

(2) 組織的で個に応じた進路指導

①フォーサイトの活用…各コース別の具体例を作成して、生徒に配布した。休校期間中や長期休業中の模範例を作成して配布した。担任と進路指導部長で、一ヶ月に2回のチェックをした。

②基礎学力の育成・教務部の協力を得て、放課後講習・夏期講習を実施した。国語・英語・数学は2名ずつ専任教員がいるため、基礎と応用で実施することができた。
リモートで数学と日本史を実施することができた。

③進路への意識付け…面接対策講座、オープンキャンパスのレポート、仕事調べ、進路ガイダンス、進路体験報告会などを実施した。

3年生の面接対策講座は4月に実施する予定であったが、新型コロナウイルスによる休校の影響で、6月の実施となってしまった。

④総括

新型コロナウイルスの影響でオープンキャンパスが中止になったり、入試事態が回数を減らして実施されたりと予想できないことが起きた。これを教訓として、進路に対する意識を1年生の時から持たせたい。「後の日程でもよい」と思っているとそれが実施されない可能性を考えて、早期に動き出すことを生徒に促したい。

5 生徒募集

令和3年度 入学者数 ※()内は、昨年度の数

応募56名(79名)・受験55名(79名)・合格55名(78名)・入学42名(58名)

<コース別入学者数内訳> A・・・単願 B・・・併願

音	楽	A	6(6)	B	0(0)	一般	0(0)	合計	6(9)
幼	児	A	6(9)	B	0(0)	一般	1(4)	合計	7(12)
バ	レ	A	7(8)	B	1(0)	一般	2(6)	合計	10(14)
舞	台	A	15(13)	B	0(0)	一般	4(9)	合計	19(22)
合	計	A	34(36)	B	1(0)	一般	7(22)	合計	42(58)

※令和2年度入試の傾向

・昨年度と比べ、受験者が2割減となった。一昨年からは半減である。新型コロナの影響による休校なども含め、体験入学・学校説明会や学校行事等への中学生の参加が激減して

いる。また、今年度も都立高や県立高の倍率が低いため、B推薦での入学は1名のみである。一般入試も都内生や近隣県の入学生徒は見込めなかった。私立中や都外遠距離県の入学生徒の数も減ってきている。

※今後の対応

- ・今年度は、全教員が一人3校学校訪問を実施、募集委員は、委員の中学校訪問の絶対数を増やす。日音の学校行事や体験入学・学校説明会に昨年度以上の中学生に来校してもらえるよう、チラシ配布・HPでのコマーシャル・中学校訪問（バレエ教室・音楽教室等）をさらに充実させる。特に日音チャンネルへの充実を図り、認知度を高めていく。
- ・次年度に向け、コースの見直し等を行っていく。

6 退学等

全校生徒に充実した学校生活を送らせる高い満足度をもてるように指導をしているが、今年度、様々な理由でやむを得ず途中転学または退学した生徒の数は、以下の通りである。個々にその原因は違うが、教員のカウンセリング能力を高めるとともに保護者の理解を含め丁寧な対応と指導で減らしていく。

<理由>

- ・病気のため退学
- ・コースの方針と合わず通信高校に転学。

<途中転学や退学者数>

1年 幼	1名	音	0名	バ	2名	舞	0名	計	3名
2年 幼	0名	音	1名	バ	2名	舞	1名	計	4名
3年 幼	0名	音	0名	バ	0名	舞	0名	計	0名
合計 幼	1名	音	1名	バ	4名	舞	1名	計	7名

(昨年比－8名)

7 開かれた学校づくり

(1) 教育情報の積極的な発信

・本校公式ホームページは、家庭用PCだけでなく、携帯やスマホからも見ることができる。日々の更新を確実にし、情報の発信をしている。パスワードにより保護者・生徒だけが見られる連絡欄も活用している。新型コロナウイルス感染防止による臨時休校に対応するため、各家庭の情報機器環境に関するアンケートを実施した。また、中学生が興味・関心をもてる本校の行事の情報や入試に関する情報も配信していく。

(2) 併設の幼稚園・保育園・有明教育芸術短期大学との連携

・幼児教育コースの生徒による週に1度の併設幼稚園・保育園の実習や行事の手伝い等を含め、更なる連携を深めていく。

・有明教育芸術短期大学の教授による幼児教育コース（リトミック）の特別授業を行っている。昨年度も短大での授業体験&見学会など実施し、日音から4名の入学生を送ることができた。

(3) 地域との連携

・荏原第五地区の清掃ボランティア活動に参加した。

・日音祭やサウンドオブミュージック上演に関して、日頃からお世話になっている

区役所管理職や小・中学校生徒や近隣住民を招待していたが、本年度は新型コロナウイルス感染防止対応のため招待は中止とした。

(4) 学校運営連絡協議会の実施

- ・本年は新型コロナウイルス感染防止対応のため招待は中止とした。

8 教員の資質向上

(1) 管理職の授業見学

・専任および教科講師や実技講師の授業（レッスン）の年間計画（シラバス）に基づいて授業見学を行い、管理職（校長・教頭）が、定期的に授業見学してアドヴァイスすることにより、生徒にとって「わかる・できる授業（レッスン）」を目指した。

(2) 校内研修会

・教員の指導力向上のために、毎回の教員会30分間、校長を講師として教育課題に関しての研修会を実施した。また、私立中高協会からの予算を使って、昨年度に引き続きに、立正大学の鹿嶋真弓准教授を講師として招聘し、研修課題「学級担任によるカウンセリング」について全教員で研修を行った。保健関係では、食物アレルギーをもつ生徒へのエピペンの使用やAEDの使用について全教員対象に研修を行った。

(3) 生徒による授業評価

・年二回（7月と12月）生徒による授業評価を行い、各教科の教員や講師の反省材料とするとともにPDCAサイクルで授業改善を行った。

(4) 授業力向上のための研究授業（学期ごと年3回）と校内授業研修会

・6月、12月、2月の研究授業を管理職と教員で参観した。生徒による授業評価に基づき、習熟度別に差のある生徒への対応を課題として教員全体での研修会を行うなど、一人ひとりの教員の授業力の向上に努め、生徒の授業への興味・関心の喚起と理解度の向上を図った。また、今年度も9月と1月の2回、生徒による授業評価に基づく教員研修会を行った。

・授業への興味・関心を高め、習熟度に差のある生徒に対して学習意欲を喚起するために教材研究や授業方法の工夫などを行った。今後は、その実践報告を含め、研究授業の実施等を継続していく。

(5) 自己申告書による面接及び業績評価・教員の動向

・校長と教頭が4月・10月・2月に自己申告書による面接を実施し、自己の課題を明確にし、学校経営のへ参画意識をもって教育活動を行う。このことにより業績評価、教員の指導育成に生かす。

(以上)

令和2年度 事業報告

日本音楽学校幼稚園

《 令和2年度の教育環境についての変化 》

「外部状況」

- 1・令和2年度はコロナ感染症の影響により、4月、5月は休園となり、預かり保育も実施しなかった。その為、他園では保育料や細かな納金に対し返金の要求が出されたが、本園は1件もその様な声は上がらなかった。
その大きな理由としては、保育料¥25,700が全員に給付された事や、休園中の園児への頻繁な電話かけや手作りの教材の送付などをしてきた事などが上げられる。又、預かり保育の月極め利用者に対しては、6月からの分散保育中も全日登園の許可とした事や4月に月極め利用者には、令和2年度中のどの月でも利用可とした事などが不満につながらずに済んだ原因と考える。
- 2・今年度はコロナの影響もあり、父親の収入が充分でない現象も起き、母親も働かざるを得ない家庭も多くみられた。その為、保育園に預ける家庭が増加し保育園から入園してきた園児は少ない。品川区私立幼稚園の半数が定員割れとなっている。保育園は無償化に近い補助金が出ており、更に子ども園の形式も導入され、長時間の預かりや一年中休みなく運営されている点等から、働く母親の増加と共に、就学まで保育園に在園する幼児が増加している。

「内部状況」

- 1・預かり保育の利用者も母親の就労により、年々、月決めで利用する園児も多くなり特に年少児から利用の増加がみられる。
その一方で、園児の園活動の範囲内での時間で仕事をもつ母親も増加している。
- 2・年中児へ体育専門の指導者が月2回、英語も月2回導入された事は保護者からは好評であったが令和2年度は3学期になってやっと実施された。
- 3・令和元年度は7名いた教員が11月、2月、3月と退職し4名となった。退職者はあちらこちらの幼稚園を渡り歩く傾向がみられたが、給料の安さと仕事量の多さを指摘していた。教員の待遇改善は急務である。クラス担任を2名制にすると仕事量の負担も減り、退職者が出てても保育の質を落とさずに済むのではないかと思う。
その後、保育園から1名が増員されたが、主任がクラス担任する状況では、全教員の負担増や2歳児教室や園庭解放もできず、来年度への園児募集対策に不安が大きい。
- 4・退園児の状況 コロナの影響により6名の転居。下にも弟妹がいたので残念である。

《 園 内 活 動 に つ い て 》

1・令和2年度の年間教育重点目標について

年間教育目標：「健康」の領域より《 健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。》

ね ら い ：（１）明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。

（２）自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。

（３）健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ見通しをもって行動する。

- ・令和2年度はコロナの影響により、1学期は休園や分散登園であったが9月に入り平常の保育にもどった。その為、体力も少しずつ回復し、運動会も分散ではあったが実施できた。
- ・コロナに対して衛星面では保護者の協力もあり、園児達も検温、手洗い、マスク等の習慣も身につけ、コロナ感染症は元より「インフルエンザ」や「胃腸炎」の発生も抑えられた。

2・教員の資質向上への取り組みについて

- ・外部研修は品川区私立幼稚園協会も実施されなかったが、内部研修として朝の会で連絡、報告、日々の安全面などの研修をし教員の資質向上に努めた。

3・特別強化授業について

「楽器」は年中の3学期より、基本の「バチの使い方」「鍵盤ハーモニカ」の吹き方等の基本を学び、年長の運動会では「鼓笛隊演奏」、遊戯会では「合奏」を演奏できるまでに成長したので保護者からは感謝の言葉が寄せられた。

「体育」は3学期から月2回、講師の先生の指導が入り保護者から評価されている。

「英語」は年長、年中に月2回指導日がある。今年度は3学期から実施となったが英語に興味を持つ園児が増え、小学校にも繋がっている。

4・園と保護者とのつながり

- ・懇談会、家庭教育学級などに出席している保護者は理解しやすい事も預かり保の定期的利用の保護者は出席率が低いので補足を必要とする事が多い。
- ・保護者の会の活動について
今年度の役員とは会長さんとは、密に連絡をとりあう事が出来たが他の役員とは、休園や分散登園等も重なり話す機会が例年より少なかった。

5・預かり保育の強化について

園全体の休園と共に預かり保育も4月、5月は休園し6月からは分散登園であったが、「預かり保育を必要」とする家庭には、毎日の利用を許可した為、喜ばれた。年々、年少児の月決め利用が増えてきた事や、長期預かり保育を利用する園児の増加もみられ、正規の預かり保育担当者は2名欲しい。

6・幼稚園と小学校との連携について

宮前小学校との授業体験は実現した。又、宮前小学校からの職場体験は受け入れた。

三木小学校との「ふれあい交流」は、コロナの関係で中止となった。

7・地域との関係

- ・園庭開放・・・今年度は、コロナの関係もあり、実施できなかった。
- ・子育て相談・・・2歳児教室の日に実施。

8・令和3年度への入園募集への取り組みについて

- ・2歳児教室説明会は出来なかったが、7月、8月、9月、10月にはホームページで先着順に20名、2歳児教室の募集を行った。
10名ずつの2グループに分け1回60分親子で保育体験を行った。
20名の内、14名が入園した。

- ・子育て支援2才児教室：当園入園希望児を月2回、保育料を徴収し実施
月2回 親子で保育体験 登録料 ￥3,000 参加費 1回 ￥1,500

<年間事業>

基本方針

- ・日本音楽学校保育園は保育園の基本方針・保育目標・保育方針を基本に保育課程に沿って年間指導計画月・週案を立案し、一人ひとりの発達・発育に合わせて丁寧に関わり、保育を実践している。

保育実践

- ・4～6月緊急事態宣言を受け休園となった。登園児童数は数名。職員も合わせて出勤日を調整し対応する。
- ・今年度はコロナ禍にあり計画していた行事や保育活動は自治体の指示・判断を踏まえて（保護者会・プール遊び・保育参加・運動会・音楽会）中止や縮小とした。全体保護者会や年度末保護者会は、日常の写真を掲載し少しでも様子が分かるように工夫し、また運動会に関しては代替案として別日を設けクラスの演目のみ見てもらう様にした。蜜にならぬよう人数制限や、検温・手消毒などにも協力頂き実行できた。
- ・園の定める目標実現の為、保育指針を基本に保育計画に沿った内容をクラス間、全体で把握し、細やかに確認しながら一人ひとりの発達や様子・興味関心に沿った指導案を立案し丁寧な保育を進めることができた。
- ・戸外活動も密にならぬように配慮し、高等学校グラウンドや8号館など法人施設も多く利用しながら、体を動かし遊ぶ楽しさを感じられるよう活動できた。学校のグラウンドは安全にコンビカーやボール遊びを楽しめ、のびのび体を動かす事が出来ると、保護者の方も喜んでいる。近隣の公園は他の保育園も利用し混雑していることもよくある。
- ・手作り望遠鏡を持参し公園に散歩に出かけたり、砂遊びや探索活動を楽しみ、季節の花をみたり自然に触れるなど身近にあるいつも行く公園で戸外の活動も楽しめた。
- ・べんちゃんと遊ぼうでは年間を通し、身近な素材を使って様々な製作を楽しむ事ができ、作品を通して子どもの成長を感じてもらい、親子でやり取りや会話をする姿が多く見られた。
- ・年間を通してどのクラスも、季節や興味・発達にあった製作をし、1歳児クラスは「絵本」や身近なキャラクター等テーマを持って製作活動をしており完成した作品を喜び、期待をもってみている姿があった。
- ・クッキングは年度末に2歳児クラスが1度ピザトースト作りを行った。子どもたちは期待を持ってのぞみ、楽しむ姿があり貴重な経験をした。
- ・今年度より英語で遊ぼうという活動も取り入れ、遊びの中で楽しみながら英語に触れることが出来た。すぐに子どもたちも英語の歌を覚え、絵本を喜び活動に意欲的な姿があった。
- ・野菜の栽培も、自粛中に登園している園児で種うえをする等前年と同じように経験が出来たらと進めた。初めて冬野菜を植え、収穫したてのほうれん草を給食で提供し、とても喜んで食べていた。次年度も年間を通して栽培を楽しみ食への興味関心が深まるように活動をしたい。
- ・戸外での活動では、公園チェックを欠かさずに行う事が職員の中にも定着しより安全に戸外活動を行っている。

保護者支援

- ・毎朝の検温・手消毒など協力をいただいております、今後も続けていく。
- ・年度初めに緊急事態宣言を受け、多くのご家庭から自粛に協力を頂けた。保護者の勤務状況に応じて、保育をお願いされることもあったが、個々の状況に応じる対応が出来た。
- ・8月の臨時休園にも協力を頂き感染が広がることなく収束できた。緊急連絡メールを送信した後、各家庭に電話連絡で伝達をした事で混乱もなかった。
- ・今年度は状況を考慮し保護者会・保育参加・親子遠足など園での様子を見て頂く機会がなく残念だった。園の様子を見てもらえないので、保護者とのやり取りはしっかりと行い、写真や日常の様子を動画にする等の工夫をした。動画などは保護者の方大変に喜んでいただいていた。
- ・個人面談は希望をとり必要に応じて行った。次年度は状況によるが対策をしっかりと整え、どのようにしたら出来るのかを考え行っていきたい。
- ・今年度よりユニファ（株）に依頼し写真の販売を行い、大変好評を得ている。購入せずとも写真を見るだけで日常の様子がわかるようで喜ばれている。
- ・第三者評価のアンケートに協力をいただいた。9割近い保護者の方が回答をしてくれた。第三者機関の方も、こんなに高いアンケート回収率は初めてとの事。

地域交流事業

- ・全ての交流事業は中止となった。

地域の保護者支援

- ・園の見学もしばらくは中止としている期間があったが、10月頃より希望者は1名ずつのみ、園内を簡単に説明する程度とした。

研修

- ・園内研修「子どもの人権」について学ぶ。今年度はアルバイトの方にも事前アンケートを行い、結果をフィードバックし保育に活かしてもらうよう声をかけた。園全体で取り組むことで意識がより高まってよかった。
- ・今年度の外部研修は殆ど中止となってしまった。
- ・オンラインでの研修を受けた職員もいるので、今後は環境を整えていきたい。

職員分担・勤務形態

- ・今年度は通常とは違う形となり日常の保育の他、1日2回の検温をはじめこまめな手洗い・玩具消毒や、園内の清掃など通常よりも更に衛生面などに配慮し感染防止に心がけた。職員の休憩室を分けるなど工夫している。職員の気持が疲弊する部分もあったように思う。
- ・今年度はコロナ禍にあり在宅にて勤務の保護者も多く、通勤時間が短縮となりお迎えの時間が早まる園児もいた。少しずつ通常に戻りつつある。

- ・経験豊かな保育士2名が産休に入ったため、非常勤職員を確保。出産を控えた職員もおり、緊急時など対応できるようゆとりある、人員の確保は必須かと思う。
- ・次年度はアルバイトの人員や時間数を見直しており、また新たな看護師を迎えるため職員の動きが変わってくる事と思う。

その他・・・2階 階段踊り場 LED 電球の取り付けを行い明るくなった。

- ・写真販売をユニファ（株）に依頼しインターネット販売を今年度より開始。保護者の方より好評を得ている。
- ・今年度より、緊急連絡用メールを配信出来るようにし、一斉に保護者への伝達をした。

年間保育内容 (園児状況) 行事状況 t

1期(4・5・6月)	
<p>・園児受け入れ・・・4月1日現在 0歳児7名 1歳児 11名 2歳児 10名 計28名 緊急事態宣言をうけ4・5月は保護者の勤務状況により受け入れする。登園する園児はほぼいない。 4月はじめましての会・全体保護者会・保育参加・健康診断(6月に実施)は全て中止とする。 今年度地域交流事業を中止とした。 歯科検診(6月実施) 2歳児野菜の苗うえを経験する。</p>	
2期(7・8・9月)	7月より0歳児2名入園 9月より2歳児1名入園
<p>・プールあそびは中止 沐浴・シャワーのみとした。 七夕の会・とどらあまつりは園内で在園児のみで行う。縮小となったがそれぞれ雰囲気を楽しんでおり開催できて良かった。 敬老会は中止 職員がコロナウィルス陽性となり8月1日～11日臨時休園 4日PCR検査 全園児・職員うける。</p>	
3期(10・11・12月)	
<p>運動会は人数制限など蜜にならぬよう配慮し行う予定だったが、雨天の為中止・日程を変更し 代替案として「わくわくひろば」を10月28日に行う。多くの保護者が参加した。 ハロウィーンでは近隣の商店の方、保護者も参加してくれて子ども達にお菓子をくれる。高齢者デイケア訪問は今年度中止とする。 希望者のみ個人面談を行う(11月) 小さな音楽会中止 お楽しみ食事は盛り付けに配慮し行う 第1回 拡大委員会(11月13日)</p>	
4期(1・2・3月)	
<p>新年おめでとう会 豆まき会 ひな祭りは製作と共に園内で楽しんだ。 年度末の保護者会は開催できず、資料を配布する。 うさぎ組親子遠足は中止となり園児のみ初めて行く公園で、遠足ごっこを楽しんだ。 2月2歳ピザトースト作り 第2回拡大委員会 ・新入園児オリエンテーションは今年度なくし、面接時に細かく説明をした。 ・令和3年度新入園児健康診断8名(0歳5名欠員)問題なく入園決定。 さようならの会 小ホールにて卒園児・その保護者のみ参加とし実施。 卒・転園児 11名</p>	